

# 従業員の健康・メンタル問題についての配慮 ～経営者がしなければならないこと～

コロナ禍以降メンタル疾患が増え続け、2021年労働安全衛生調査(実態調査)によると過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1カ月以上休業、または退職した労働者がいた事業所の割合は13%を超えました。これに伴い労使間の訴訟も増え、訴訟に至らない示談案件も増え続けています。この大きな要因は、働く人の価値観が大きく変わってしまったこと、SNS世代と昭和世代のギャップ等が挙げられ、加えて少子高齢化による人手不足と高齢者雇用による労災など全業種に跨る大きな問題となっています。そこで、経営者がしなければならないこと(従業員の健康問題について配慮することなど)についてセミナーを開催しますので、是非多数ご参加くださいますようお願いいたします。



一般社団法人大阪外食産業協会  
副会長・労務部門長 森田 佳代子

日時

2024. 11月11日(月)15:00～16:30 懇親会 17:00～18:30

**【1】社会保障費・医療費の破綻から健康に関する様々な施策が求められる。特にメンタル系**

①EAP(従業員の身体と精神の両方の健康を支援するプログラム)の普及

**【2】従業員の健康対策を考えない企業は、前時代的**

①健康経営優良法人や最低でも協会けんぽ「金」と「銀」の認証は必須(都道府県により呼称は変わる)

**【3】訴訟に耐えられる体制——ヘルスセキュリティの時代**

①健康診断の結果保管義務 5年 ②就業判定(労働安全衛生法に基づき、企業で健康診断を実施後、有所見者に対して、産業医の意見聴取を行う義務がある、就業上の措置に関する判断の実施)

③上記を怠ると労働安全衛生法違反になり、訴訟で負ける可能性が高い。

**【4】時代にあった働きやすい環境作り**

①電話相談・リモートワーク・各種福利厚生。②マズローの五大欲求。③HPで積極アピール。

④人権やハラスメント対策等の研修⑤新しい研修体制の導入



講師:有賀 博之氏 (株地球健康クラブ代表)※総合警備保障(株)ご紹介・推薦

26年間損害保険会社勤務。サラリーマン作家として、「太陽にほえろ」等で活躍した脚本家故杉村升氏に師事し、「裸の大将」「西部警察」等の脚本の実作をし、小説では「死神島(角川書店)」「蹴殺(徳間書店)」「バイオハザード(カプコン)」等を上梓。バイオハザードは北米で40万部のヒットとなる。その他文芸誌にも多数作品を発表。作家の視点で、ハラスメント対策・心理的安全性等のセミナーを展開している。

場所

**【セミナー会場】ORA大会議室**

大阪市浪速区敷津東2丁目2番8号

大阪木津地方卸売市場南棟2階

[交通]Osaka Metro 御堂筋線・四つ橋線「大国町」駅から徒歩4分

参加費

①セミナーのみ

会員 2,000円(税込) 一般 3,000円(税込)

②セミナーと懇親会

会員 7,000円(税込) 一般 8,000円(税込)

**【懇親会会場】千房 千日前本店**

大阪市中央区難波千日前11-27 道風ビル

申込方法

下記申込書にご記入の上、11月6日(水)までにORA事務局へFAXかメールにてお申込み下さい。

【お問合わせ先】ORA事務局 TEL:06-7668-5575 担当:松井・村上

第374 労務部門会セミナー(11/11)申込書

[メール:matsui@ora.or.jp FAX:06-7668-1075]

会社名	TEL	Mail アドレス
参加者氏名	役職	ご参加について(どちらかに○を付けてください)
1		セミナーのみ参加・セミナーと懇親会に参加
2		セミナーのみ参加・セミナーと懇親会に参加
3		セミナーのみ参加・セミナーと懇親会に参加